

緬羊畜産業のパラダイムシフト

本州の緬羊農家の課題

- ・既存緬羊の産仔率が低い 年1.5~1.6頭 →年2.5~3頭 損益分岐が早まる
- ・農地面積が小さい →少ない繁殖雌でOK 経費削減
- ・新規で始める為のハードルが高い →繁殖率が高いので増頭が早い
- ・緬羊専門の獣医がない

緬羊畜産のメリット

- ・4番目のテーブルミートとして有望である
→メディア等での露出増加傾向
- ・競合が少ない
→小規模農家を合わせても1,000軒
- ・売り手市場である（供給不足）
→全国で23,000頭しかいない
- ・大掛かりな施設はいらない
→牛のような大きい施設はいらない
→初期投資を抑えられる
- ・家畜臭が少ない
→豚や牛に比べて立地条件が緩い
- ・堆肥が少なく乾燥している
→堆肥舎などの大規模な施設はいらない

フィンッシュランドレース導入で

表1.フィン交雑種の繁殖成績

交配法	母羊 年齢 (歳)	交配 頭数 (頭)	受胎率 (%)	産子数 (頭)	育成率 (%)
S×S	2	577	94.1	1.75	80.3
	3~6	1007	95.4	1.79	85.6
F×S	2	33	100.0	1.73	91.2
	3~6	60	93.3	1.64	94.6
S×FS	2	62	100.0	2.74	75.3
	3~5	128	99.2	2.87	80.0
S×SFS	2	30	96.7	2.28	92.4
	3~5	33	100.0	2.36	89.4
S×SSFS	2	9	100.0	1.78	100.0
FXF	2	17	100.0	2.71	77.8
	3~4	34	97.1	3.30	69.7

注)S×Sはサフォーク雄×サフォーク雌

F×Sはフィン雄×サフォーク雌

S×FSはサフォーク雄×FS雌(一代雑種)

S×SFSはサフォーク雄×SFS雌(二回雑種)

S×SSFSはサフォーク雄×SSFS雌(三回雑種)

F×Fはフィン雄×フィン雌



フィンッシュランドレース種 (Finnish Lnadrace)

- ・フィンランドが原産で、フィンシープとも呼ばれる
- ・体重は雄が70~90kg、雌が55~80kg
- ・産毛量は1.8~3.6kg、毛長は7.5~15.0cm、番手は50~60S'
- ・産子数が多いことが本種の特徴で、2~4子を産むことが多い



サフォーク種 (Surffolk)

- ・イングランドが原産
- ・体重は雄が100~135kg、雌が70~100kg
- ・産毛量は2.3~3.6kg、毛長は6.0~12.0cm、番手は48~58S'

Finn Sheep導入 デメリット

- ・育成率が低い→自動哺乳システム構築・ミルクラム出荷
- ・個体が小さい→サフォークとのクロス繁殖する事で改善